

平成29年度医療情報の理解促進に関する研修会のテーマについて

1 概要

都民が医療を受けるに当たり、主体的に選択・判断するための基盤となる医療情報の正しい理解を進め、また、患者（都民）と医療従事者のより良い関係の構築を図るため、医療に関する基本的な知識や関係する制度、適切な受診方法等について説明・助言を行い、医療に関する理解を促進する役割を担う人材を養成する。

2 開催日時 平成30年 1月～3月頃を予定

3 研修会(案)

(1) 患者参画のチーム医療 ～患者と医療者の向き合い方～

チーム医療とは、一人の患者に対して、複数の医療専門職が連携して治療やケアに当たることとされているが、患者自身もチーム医療に参画し、意見や希望を言える環境づくりを行うことが重要である。患者参画の医療を充実させるために、病院管理者及び医療関係者等を対象に、患者と医療者の向き合い方に焦点を当てた内容を取り上げる。

(2) 人生の最終段階における医療とケアのあり方

人生の最終段階を暮らしの場である自宅で過ごすことを多くの患者が望んでいるが、実際には7割程度の方が病院で亡くなっている。（出典：厚生労働省「平成27年人口動態統計」(東京都分)）

希望する最期の過ごし方や医療について患者自身で考えてもらうには、患者や家族へどのような情報をどのように伝えればよいか、病院管理者及び医療関係者等を対象に、患者の意向に基づいた支援の方法について学んでもらう。

(参考：平成24～28年度開催実績)

	開催日時	内容	講師	参加人数
24年度	①11月7日(水) 14時～16時半	■基調講演「いま、医療機関に求められること～医療制度の現状と課題～」	国際医療福祉大学大学院 教授 池田俊也 氏	264名
		■患者と医療従事者とのコミュニケーションの向上		
		①講演「患者側とのギャップをなくし、よりよい医療の提供を！」	消費生活アドバイザー 坂本 憲枝 氏	
		②講演「患者・家族とのパートナーシップ強化に向けた取組」	東京厚生年金病院 医療安全管理室 医療安全管理者 松浦 真理子 氏	
	②2月13日(水) 13時半～16時半	■東京都保健医療計画の第5次改定案のポイント		336名
	①基調講演「東京都の保健・医療における今後の方向について」	東京医科歯科大学大学院 教授 河原和夫 氏		
	②精神疾患医療の取組	東京都福祉保健局障害者施策推進部精神保健・医療課長		
	③認知症対策の取組	高齢社会対策部在宅支援課長		
	④在宅療養の取組	東京都福祉保健局医療政策部地域医療担当課長		
	⑤医療情報の理解促進の取組			
25年度	①11月1日(金) 14時～17時	■医療従事者に知ってほしい介護の知識		118名
		①患者の説明に役立つ介護の知識	社会福祉法人慈生会 慈生会中野ケアプランセンター管理者 西本裕子 氏	
		②医療と福祉の連携	武蔵野市 健康福祉部地域支援課 課長補佐 伊藤真由美 氏	
	②2月12日(水) 14時～17時	■医療コミュニケーション～患者・家族と医療者の良い関係～	奈良県立医科大学健康政策医学講座 助教 岡本左和子 氏	217名
26年度	①10月9日(木) 14時～17時	■患者の目線で考える医療コミュニケーション		247名
		①相談から見える患者のキモチ	医療政策部医療安全課指導係主任	
		②患者・家族の理解と納得につながるコミュニケーション	東京SP(模擬患者)研究会 代表 佐伯 晴子 氏	
	②2月13日(金) 14時～17時	■医療従事者に知ってほしい認知症ケアとコミュニケーション		119名
	①東京都の認知症施策について	東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長		
	②認知症の人とのコミュニケーション	独立行政法人東京都健康長寿医療センター 看護部看護師長 白取 絹恵 氏		
27年度	①11月25日(水) 15時～17時	■患者・家族との対話の進め方～トラブルにならないために～		134名
		○医療メディエーションを活用したコミュニケーションスキル	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐 荒神裕之 氏	
	②1月28日(木) 14時半～17時	■患者とのコミュニケーション術		199名
	○わかりやすい説明の仕方～患者の立場から～	NPO法人ささえあい医療人権センター-COML 理事長 山口 育子 氏		
28年度	2月15日(水) 15時～17時	■患者・家族とのトラブルを防ぐ		262名
	○円滑なコミュニケーション	早稲田大学大学院法務研究科教授 和田 仁孝 氏		